

- 1 日時：令和5年10月11日（水）午前10時～11時30分
- 2 開催場所：県庁11階1106会議室及びWebexによるオンライン会議
- 3 結果：

(1) 議事

- ①薬剤師確保に係る第8次茨城県保健医療計画（案）について
- ②薬剤師修学資金貸与事業（仮称）について
- ③各病院等における検討事項について

(2) 今後のスケジュール

- ・ 意見を参考に、第8次保健医療計画最終案を作成し、12月頃に書面で委員に示す予定
- ・ その後、薬事審議会(報告)及び医療審議会(審議)を経て3月に正式に決定となる予定

【以下、各委員からの主な意見】

《地域枠》

- ・ 地域枠の人数が10人程度では少なく、40～50人程度に増やす必要がある。モデル事業として開始し、徐々に人数を増やすべき。
- ・ 薬剤師のストレート合格率が低いため、奨学金の無駄を防ぐためにも広く門戸を開き、参入しやすい地域枠を設けるべき。
- ・ 薬科大学がない自治体を対象とした地域枠を設ける大学が増加している。
- ・ 地域枠出身者が地元に戻る際にキャリアアップできるモデルや受け皿を整備する必要がある。
- ・ 薬剤師の専門資格は学会等の任意認定制度であり、法的な扱いはない。
- ・ 病院で優秀な薬剤師を育成するには研修が重要であり、研修プログラムの一部を中核病院で行うことが有効

《地域枠以外》

- ・ 地域包括ケアシステムに対応する薬剤師を育成するため、中小病院も議論に含めるべき。
- ・ 地域枠の取り組みと併せて事業者努力部分について、県薬務課からのサポートを期待する。
- ・ 女性薬剤師が継続して働ける環境づくりや、小中学生への職業アピールも重要
- ・ 保健所での保健師募集案内のように、薬剤師も同様の取組みを行うことができないか。
- ・ 魅力的な職場づくりや、優秀な薬剤師の存在をアピールすることが重要
- ・ 相談会や意見交換会の形の方が、研修会よりも参加しやすいと考える。
- ・ 名簿作成が重要であり、これがないと効果的な声掛けやコミュニケーションづくりが難しい。
- ・ 潜在薬剤師の数を把握する必要があるが、現状では約半分しか把握できていない。
- ・ 子育てなどで長期間休職している薬剤師が働きやすい環境整備が求められている。
- ・ 薬剤師バンクは存在するが、十分に機能していない現状がある。
- ・ 大学の就職説明会では薬局の参加が多いなど課題があるため、県独自の就職説明会開催について提案があった。
- ・ 採用活動の広報には、地域の風景や仕事の写真を活用した広報やインターネットやSNSを活用しながら病院薬剤師会や薬剤師会と連携
- ・ 調剤薬局やドラッグストアから病院への転職を促す方策（面白さ、やりがい等）が課題
- ・ 退院時の合同カンファレンスを活用し、薬局薬剤師と病院薬剤師の接点を増やす提案があった。